

約束の新宿で恒例同窓会

秋中14日会

今年の「秋中14日会」は4月12日、例年どおり東京・新宿の小田急ホテルサザンタワー21階アーバンルームで開催した。

この会が誕生したのは、昭和36年1月14日。その後、昭和57年8月21日には卒業35周年記念に昭和21・22年旧制秋田中学卒合同の同窓会として東京・目黒の雅叙園で一泊の盛大な会を行い67人の参加が記録されている。その年から数えて今年は33回目となり、あと2回で卒業70周年、全員が米寿を迎えることになる。

今回はこれまでで最も少ない人数だったが、話は盛り上がった。秋田から同窓会幹事の佐藤鉄男君、仙台から八代梓君ご夫妻と工藤充君、静岡から小西忠邦君、照井敏雄君が加わり、首都圏の常連も出揃ったので次へ前進することに迷うことはなかった。

金沢佑吉君のプロ並みの写真に収まると、当番幹事の相馬守胤君、築茂和君、久しぶりの那小屋豊君の元気な姿に力を得て、野口力君の音頭で校歌、秋田県民歌を合唱し得意の締めで散会した。次は来年4月10日、同一の場所と時間で待っている。(和田 明 記)



内陸線と温泉を独り占め

秋高36会同期会

卒業55周年を記念した秋高36会の同期会を、10月22日・23日の両日、マタギの里打当温泉を借り切って開催した。県内外から同期生40人が集まった。

22日は角館・阿仁間を秋田内陸縦貫鉄道の車両に秋高36会のエンブレムをつけたお座敷列車と展望車を借り切り、紅葉の中、別便を運行、深まる秋の車窓を楽しんだ。森吉山のゴンドラに乗り、眼下に絶景を眺め、阿仁クマ牧場を見学の後、貸し切りの打当温泉で旧交を温めた。

翌23日はバス2台で紅葉盛りの大覚野峠を越え、田沢湖畔の思い出の潟分校でミニ授業、昔昔に思いをはせる。秋晴れの中、たくさんの思い出を胸に田沢湖、角館を経由し秋田へ、それぞれの帰途についた。(大石礼之輔 記)



次の世代へ 会則制定

応援団OB会紫紺の会

東北六魂祭で賑わう5月30日、秋田市の大町ビルで平成27年度総会を開催しました。新会員を含む10人が参加し、在学中の思い出や母校への思いを熱く語り合いました。

また、総会に先立つ役員会では会則を制定可決し、会の体制が一段としっかりしたものになりました。総会では同窓会設立100周年祝賀会への出演依頼を受けたことも報告され、6月13日には母校研修会館で校歌と校友会歌の練習会を実施、6月21日の祝賀会本番に備えました。(写真は祝賀会で校歌のリードを務める池田副会長)

(保坂尚吾 [昭和55卒] 記)



秋田、東京で同時開催

昭和55年卒同期会

7月4日、昭和55年卒の私たちは卒業後35年にして、初の同期会を開催しました。校歌の「上げよよに」を地でいき全国、世界に活動の場を広げている皆の都合を考慮して秋田と東京に会場を確保し、ネットを使った2元中継のまねごとなども実施しました。すると、今年の開催が必然であったかのように、全体で110人を超える盛会となりました。

秋田会場では先生方にもご列席を賜り、はだはだ(鮎)やガッコなどを交えた秋田のうめものに加え、同期生経営の酒蔵が今回のためだけに作ってくれた吟醸酒などで大いに盛り上がり、語り、かだった(集まった)のでした。

東京会場では思い出再現スライドショーや同期生のプロギタリスト演奏、応援団長リードで校歌斉唱などの企画もあり、あっという間の2時間でした。あまりの盛り上がり「次回なんとするか」の問いに、多くの意見、希望、夢が寄せられ、再会の日が遠くないことを実感しています。

(佐藤 研 記)



東京会場



秋田会場